



Title	大阪大学 日本学報 第38号 執筆者紹介/編集後記/ 奥付
Author(s)	
Citation	日本学報. 2019, 38, p. 164-165
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/85159
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

■執筆者紹介（掲載順）

北原 恵（きたはら・めぐみ） 大阪大学文学研究科（日本学専門分野）教授

クォン・ユンドク 絵本作家

申 明浩（しん・みょんほう） 武蔵野美術大学非常勤講師

渡辺 美奈（わたなべ・みな）

アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(wam) 館長

龜山 光明（かめやま・みつひろ） 東北大大学国際文化研究科前期博士課程2年生

西村 まりな（にしむら・まりな） 大阪大学文学部（日本学専修）4年生

松永 健聖（まつなが・たけまさ） 大阪大学文学部（日本学専修）3年生

前川 拓人（まえかわ・たくと） 大阪大学文学部（日本学専修）3年生

小林ハッサル柔子（こばやし・はっさる・やすこ）

大阪大学文学研究科国際交流センター助教

坂口 恵利佳（さかぐち・えりか） 大阪大学文学部（日本学専修）2017年度卒業

坂本 夏海（さかもと・なつみ） 大阪大学文学部（日本学専修）2017年度卒業

陳 健智（たん・ういでい） 台湾・東吳大学歴史学部講師

鹿野 由行（しかの・よしゆき）

大阪大学文学研究科博士後期課程（日本学専門分野）2018年3月修了

猪岡 叶英（いのおか・かなえ） 大阪大学文学研究科博士後期課程（日本学専門分野）

3年生。西宮市立郷土資料館学芸員。

編集後記

私の『日本学報』編集担当は、2年後に退職するのでおそらく今回が最後になるだろう。そう思うと急に感慨深くなってきた。予算を確保して真鍋助教が事務万端全てを采配し企画特集のみに知恵を出していればよかった時代から、予算削減と紙媒体の必要性が低下したために思い切って紙媒体を減らし電子媒体に移行しつつある今日まで、『日本学報』も時代の大きな変化の波に直面してきた。今号の編集にあたっては、印刷方法の再検討を主導してくださった同僚の北村毅先生と、細かな事務作業を担ってくれた教務補佐の鎌倉洋太郎さんがいなければなしえなかっただろう。記して感謝したい。

『日本学報』の担当者が企画運営する日本学方法論の会は、今年度は新学期が始まって早々の4月に実施した。私事になるが4月初旬、桜の花見に行った翌朝、母が大動脈解離を起こしてしまもなく急逝し、方法論の会の準備もままならなかった。それだけに2018年度は私にとっても特別な意味を持つ1年だった。若い世代に代替わりしたスタッフとともに、今後も変化し続けるであろう『日本学報』をもう少し見守りたい。

(北原 恵)

日本学報 第38号

2019年3月31日発行

編 集 大阪大学大学院文学研究科日本学研究室『日本学報』編集委員会

発 行 大阪大学大学院文学研究科日本学研究室

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5

編集協力—鎌倉洋太郎

印刷—プリントパック
